

PHAYAO レポート 2019-02 (令和元年度「緑の募金」実施報告書)

緑の募金事業の概要 (事業報告)

1. 事業名：タイ北部山岳地域 ナムカー村の森林再生と農村開発



ナムカー村植栽計画地状況 (北斜面)



稲作との共生地

2. 事業の概要

(1) 目的・内容

祖国を逃れ 40 年前頃、難民としてこの地に定住し、代々の農地を守り安定した農業収入を得るために「GMO トウモロコシ畑」を「果樹林」に転換し持続可能な森林農業と共に荒廃した大地を緑豊かな農地にすることにより森林をよみがえらせ、自立と持続可能で安定した豊かな生活の向上を目指すとともに環境保全型森林農業と循環型社会形成のモデルとして地域に波及することを目的とする。今年度転換した果樹は、マンゴー苗木 3,467 本・りゅうがん 2,268 本・オレンジ 757 本・アボカド 129 本・ドリアン 120 本で植栽面積は、合計 30.10ha を完了し、生育調査に併せて病害虫や土質などの障害調査も行った。

(2) 事業成果等

SDGs セミナー (ワークショップ) を行ったことにより植栽への理解と地球規模でのお手伝いに参加していることの大切さと誇りが感じられた。未来を担う子供たちの参加もあり、自然相手の農業に対する危機感もあうことから、今後も森林の役目と樹木の大切さが理解できトウモロコシから早く転換したいとの意見も多く聞くことができた。来年もプロジェクトを期待している。

(3) 自己評価、今後の展望

農村開発プロジェクトでは、自然との共生による自立促進をテーマに地球環境と農村生活の学習を行っている。今期初めて SDGs のセミナーを行った。題材を「緑の募金」チェック図をプラカードに印刷し民族言語で事例を交えながら通訳し、ワークショップ形式で使ったところ子供たちも楽しく参加できた。給食 (タイのうどん) や、お菓子も準備したこともあり大変好評で多くのリクエストもあった。次回は、SDGs のプラカードも現地にマッチした絵での工夫もし、学習の機会を増やす計画である。

(4) 参加者の声

トウモロコシ栽培のため森林伐採し開墾した。3,4 年経過頃から農薬による健康障害や不作が始まった、豪雨による大災害が発生し表土が流され耕作不能となった。農地の復旧に合わせ樹木の栽培が始まり、政府の奨励するゴムの栽培も始まったが先行きの見通しが乏しい。地産地消の果樹のプロジェクト

の話聞き弊害のあるトウモロコシ栽培から果樹への転換が始まりようやく今年待望のプロジェクトが始まることとなり村は活気づいている。(村長談)

① 長いあいだ待ったグリーンが来てお父さんお母さんがとても喜んでマンゴーを植えました、私のマンゴーも植えました、学校が休みの日は、寮から早く家に帰って私の植えたマンゴーにも水をあげて世話をしています。(小学3年生女子)

② セミナーの日は、うどんや、ビスケットがいっぱい食べられるのでラムヤイのお手伝いを頑張って、またビスケットが食べたいです。(5歳女子)

③このプロジェクトが来るのを3年間待ちました苗木を買うお金がないので少しずつ、ラムヤイを植えました、これから半分以上プロジェクトでお願いします。(村の世話人男性)

3. 実施場所

タイ王国パヤオ県ポン郡パーチャーノイ地区ナムカー村



村民集会 (Green Fund 説明協議)



植栽講習会



わたしのマンゴー育てます。



セミナー参加のご褒美 (タイのうどん)

